

第 4 回津波予測技術に関する勉強会の議事概要について

1. 開催日および場所 平成 21 年 3 月 11 日 東京管区気象台第 1 会議室

2. 出席者

座長 佐竹健治 東京大学地震研究所教授
委員 阿部勝征 東京大学名誉教授
今村文彦 東北大学教授
河合弘泰 港湾空港技術研究所海象情報研究チームリーダー
都司嘉宣 東京大学地震研究所准教授

気象庁地震火山部 伊藤地震火山部長、宇平管理課長、横田地震津波監視課長、
長谷川国際地震津波情報調整官、高山津波予測モデル開発推進官、
尾崎地震津波監視課課長補佐、西前地震津波監視課調査官

3. 議事概要

1) 平成 20 年度に発表した津波注意報・予報の評価について

今年度に発表したものは概ね良好との評価であったが、予測精度向上についてはより細かいメッシュでの再現性が必要であること、ニューギニアの地震では遠地データベースの予測が不十分との意見があり、改善していくこととされた。

2) ニューギニア付近の地震の津波予測のための量的津波データベース改善検討

平成 21 年 1 月 4 日のニューギニア付近の地震津波に対して、現行のモデルで西太平洋での海底地形の分解能が不十分との指摘がなされ、より分解能の高いモデルの採用、及び波源の地域特性も検討していくこととされた。

3) 津波予報区の区分けの点検について

岬や湾などの海岸地形の特性等を考慮し、現状の津波予報技術の精度等を踏まえ、現行の津波予報区の区分けが適切であるかどうか点検すべきであるとされた。

4) 東海・東南海・南海連動型巨大地震の際の津波予測手法の検討

東海・東南海・南海連動型巨大地震の津波予測について、規模と破壊領域の推定が課題であるとされた。どのような予測手法が有効か検討を続けることとされた。

5) ニューギニア付近の地震による和歌山県串本袋港の津波について

上記 2) の津波で串本袋港の潮位変動が長時間続いた原因として、湾の副振動の可能性が指摘された。湾に特有な挙動については、引き続き調査を続けることとされた。

6) その他

沖合津波計で観測された最近の津波について報告を行った。

【連絡先】 気象庁 地震火山部 地震津波監視課

電話 03-3212-8341 (内線) 4839, 4555